



道 守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.23 春号

みちづくし in 佐賀2011

「未来をひらく つながりの道」
道守活動を`共助`のきっかけに

巻頭随想

「災害に強いみちづくり」

中嶋章雅

九州風景街道フォトコンテスト
九州グランプリ決定

中嶋章雅

AKIMASA NAKAJIMA



宮崎県日南市宮浦の土砂くずれ現場



平成23年3月11日に発生した東日本大震災。この未曾有の被害に対応するため翌日の12日より被災状況確認と救援ルート選定、復旧活動等のため九州より緊急災害対策派遣隊（以下「TEC-FORCE」と言う）と現地情報連絡員（「リエゾン」）を派遣（延べ1,051人）しました。派遣された職員は日夜活動し、救援ルート確保のため東北道、直轄道路である国道4号を使用した「くしの歯作戦」に協力し早期の救援ルート啓開に尽力するとともに、その後の復旧作業の迅速化にも努めました。

また、平成23年9月に日本を縦断した台風12号の被災地、紀伊半島にもTEC-FORCEを派遣し、県・市管理道路の被災状況の確認・報告を行い、各自治体からも感謝されるなど災害に対する国の総合力、即応力を発揮することができました。さらに大洪水に見舞われたタイに職員を派遣するなど防災官庁として、国外にも広く災害対応をおこなっています。

このような災害時の協力体制として九州地方整備局では、災害の拡大や二次災害の防止を目的とした国と市町村との協定を175市町村（H24・2月末時点…76%）と結んでいます。

九州地方は大雨や地震など自然災害常襲地です。平成20年度、大雨により国道220号が通行止めとなる大規模な土砂崩落が発生しました。しかし職員、協力業者、関係機関が一丸となった迅速な対応により被災後48時間で通行を確保し、地元小学校や観光関係者等より非常に喜ばれました。

私たち整備局が管理する道路は九州内の幹線道路としての重要な役割をもち、災害時には救援ルートとして利用される道路であることから、今あ



●プロフィール
昭和31年生まれ。京都府出身。京都大学大学院卒。昭和55年建設省（当時）入省、北陸地方整備局富山河川国道事務所長、国土交通省河川局河川環境課長を経て、平成23年1月より九州地方整備局長へ就任。

道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組み人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一步踏み出そう。



とるば 清浦ダム公園の桜（鹿児島県薩摩川内市入来町浦之名）

CONTENTS

- 01 巻頭随想
「災害に強いみちづくり」
中嶋章雅
- 02 道路管理者と道守の多彩な意見交換
九州幹線道路協議会道守分科会：道守九州会議合同会議
- 04 みちづくし in 佐賀2011
「未来をひらく つながりの道」
道守活動を「共助、のきっかけに
- 08 わたしの好きな道
今と昔を繋ぐ橋「新萩原橋」
岡田敏代
- 09 私たちの道守活動
- 12 道守の輪
- 14 九州風景街道フォトコンテスト
九州グランプリ決定
- 16 九州風景街道をゆく
桜島—鹿児島—指宿—南さつま
- 18 海外道事情
安全で快適に自転車からの風景を楽しめるデンマーク！！
梶田佳孝
- 19 道守たちのトピックス
- 19 道守人物伝
- 19 横顔

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

道路管理者と道守の多彩な意見交換 共に手を携え、心の繋がる美しい道づくりへ

九州幹線道路協議会道守分科会・道守九州会議合同会議

平成24年2月24日、国土交通省、県、政令市の九州の道づくりを担う行政機関で組織される、九州幹線道路協議会道守分科会のメンバーと道守九州会議及び各県会議役員との合同会議が福岡市の九州地方整備局内において開催されました。

当日は、樗木道守九州会議代表世話人からの講話で、道守九州及び各県会議の生い立ちから今日までの歩みを振り返り、次に、今後の道守活動の広がり等への示唆を含む事例紹介として、行政との協働強化で活動の輪を広げる柳川と北九州の取組、民支援を活用した長崎と熊本での自立型への取組の4事例の報告、そして後半では、今後の活動にむけての意見や提案などの活発な意見交換が行われました。

事例報告①

北九州市道路サポーター

ボランティア活動への 小さな支援と意識の交流が 大きな市民活動の輪に発展

北九州市道路サポーター制度は「世界の環境首都づくり」にむけた北九州市での「美しいまちづくり」推進の一貫として平成17年10月にスタートしました。道路清掃美化などに取り組みされる市民層の活動や育成を支援する制度として創設したもので、創設当初は12団体513名の会員が、現在では181団体10,950名にのぼり、活動の輪が大きく広がっています。一



定の活動要件を満たす団体や企業等が登録可能で、登録会員への清掃用具の貸出や苗の支給、市民活動保険の加入、収集ゴミの回収などの支援を通じ、市民による清掃美化活動等の広がりと育成を促し、市民と行政が一緒に美しい

事例報告②

道守長崎会議

NPO道守長崎を設立し、 道守長崎会議の活動を 経済的に支援

NPO道守長崎は長崎において「道」に関わる活動を行っている市民団体、企業、個人などのネットワークの成形、道守活動の普及等を目的に平成21年5月に設立しました。会員には賛助会員になって頂き道守活動の経済支援をして頂いています。また、昨年度は道路植栽帯管理システムという社会実験を行い、スポンサー企業を募り活動費を支援頂き、花苗を購入し子供達と花植えを行えたことは道路愛護の一助と

事例報告③

道守柳川ネットワーク

地元行政の前向きな意識が 大きな支えに

道守柳川ネットワークは平成16年8月に設立、観光客の皆様に美しい柳川を楽しんでいただく…と、観光エリアの中核をなす、川下りコース・水辺の散歩道・西鉄柳川駅周辺の道を美し

と、より大きな輪に成長し、道守の言葉も市民の皆様にかなり知られてきたと感じています。またこれら清掃活動以外にも現場見学などを含めたみちの勉強会、他地域の活動者との意見交換会なども開催し、ふるさと柳川の、みちや暮らしにより関心を寄せていただく市民の輪が広がってきています。



事例報告④

道守くまもと会議

民間資金支援を活用し 花壇育成者を育て美しい街へ

熊本県は観光立県として大キャンペーンを実施中です。そうした中で維持管理費の縮減により植栽帯の管理が行き届いていない現状があります。また、道守くまもと会議で取り組んでいる「道守花壇」について自立した運営も目指しており、今回、国道3号水道町交差点の他3箇所でも民間支援を活用した道守活動を行うため社会実験を実施しました。地元企業がスポンサーとなったサインボードを設置し、活動費を調達し、花を植え花壇を管理することが出来ました。実験にはスポンサーになって頂く企業の選定やサインボー



トの記載内容等、困難な面もありましたが、熊本河川国道事務所の激励を頂きながら実施しました。花壇は、道路利用者の方々などからも好評で、今後関係機関の協力をうけながら花壇育成者を育て美しい街づくりに取り組んで参ります。

意見交換

様々な課題や思い表明

会議後半では、九州各県、政令市及び整備局国道事務所と各県の道守の皆

様とのフリーな意見交換を実施しました。道守側からは①ブロック組織化に

各会員の活動などの情報発信・交流も行っており、今後も美しいまちづくりに向けての取組が展開されていきます。



なっております。今回は社会実験であり短期間での取り組みでしたが、この社会実験での課題等を解決しながら、よりよいシステムを構築し今後も道を通じて心を育てる取り組みを広げてまいります。

く…と、春の「さげもん祭」、秋の「白秋祭」の前に、エリア内のみちの一斉除草・清掃に取り組みできています。柳川市が事務局のお世話を担ってくださり、幅広い皆様の参加をいただき、円滑に推進しています。設立当初の13団体210名程度の活動から、現在では32団体600名のネットワークへ

しい公」など、公共領域における市民や企業等の民セクターの役割をより求めているこうとする今後の時代方向からも考えさせられるテーマでした。

企業等民セクターの支援協力の 導入手法を模索

また「美しいまちづくり」の一環としての植栽や花壇育成に際しても、苗木や花苗提供などでは、必ずしも行政支援にこだわらず企業等の協力を誘導することも有意義な手法で、長崎や熊本では社会実験を通じこれらの可能性や課題等の調査を行なわれており、これら民サイドの支援協力制度の実現にも期待が寄せられるところです。

新たな苗育成モデルへの取組、 美しい心の広がりへ

また苗に関しては、種を提供し、種まきから苗への育成を学習の一環として小学生等に担っていただき、育った苗を地域の道に活かし美しいふるさとを一緒に作っている取組なども紹介されました。これらは幅広い人々の関与と汗で美しい地域を創造し、道やまちづくりに一層の関心を広め、多くの人々の心の育成にもつながっているもので、全体としてのお世話などには大変な面があるものの非常に意義深いものと感じられました。

「未来をひらく つながりの道」 道守活動を、共助のきっかけに

九州から
340人参加

九州の道守が一堂に会する「みちづる in 佐賀」が平成23年11月2日、3日に佐賀市で開催され三百四十人が参加した。

実行委員長の山崎昌治の挨拶から始まり、樗木武道守九州会議代表世話人、古川康佐賀県知事、秀島敏行佐賀市長、山内正彦九州地方整備局道路部長から挨拶をいただいた。岡本博国土地理院長から「安全・安心を守る道」と題し講演、また対談では佐賀県道路愛護協会会長である横尾俊彦多久市長を交え、「道」について意見を交わした。

みちづくしの場を借り、道守佐賀会議で行った「道の絵コンテスト」の表彰式を行い、小学生から大人までの受賞作品を紹介した。

パネル・フロアディスカッションでは各県代表から活発な意見が飛び交い、熱い議論が行われた。

最後に未来をひらく大会宣言を行い、会場からの大きな拍手で終えた。平成24年度は熊本にて「みちづくし」が行われる予定。

基調講演

岡本博 国土地理院長

「安全・安心を守る道」

東日本大震災が3月11日に発生し、その中で「道」はどういう役割を果たしたのか。日本付近でマグニチュード9を経験したのは初めてで、大きかったのが津波。死者・行方不明者が2万人弱の被害がでた。津波で海岸沿いの道路が特に被害を受けた。国土交通省では「くしの蘭作戦」を実施。救援物資を届けようと高速道路、国道を幹にし、海岸までの道路を震災翌日には16本中、11本を通行可能とした。とにかく道を広げていくことを災害時協定を結んでいる地元建設会社と共に行った。

また道は、命を守るものになった。盛土して造られた地上高の高い道路は



岡本博国土地理院長

対談

岡本博 国土地理院長
横尾俊彦 佐賀県道路愛護協会会長（多久市長）

「出会ったゴミは拾いなさい」

横尾 岡本院長は道守会議の生みの親と聞いています。

岡本 生みの親ということではなく、たくさん親の方がいらっしゃる。ボランティアをされている方は、元々、たくさんいらっしゃる訳だが、あちこちで掃除などをされている方のご意見を伺う場所、そこで会議を開いた。道路を作っている側も皆さんとお会いして非常に良い刺激を受け、元気になる。第8回まで続き、大変ありがたい。

横尾 8回まで続けば、まだまだ続く。道路を作る側が一番嬉しいのは「良かったよ」など声を掛けてもらうこと。苦情は多いが、「ありがとう」は意外に少ない。暮らしに必要な道、産業に欠かせない道、それ以上に重要なことは命を守る道と痛切に感じます。

岡本 平成21年に宮崎に台風が来て大きな土砂崩れが起きた。夜通し作業を行い、片側一車線だけでも通れるようにと努力しました。

横尾 災害の復旧は危険極まりない作業で大事だが、道のゴミ拾いなどの輪も本場に重要。その絆を大切にしていって色んな連携を地域で行っている。道守



横尾俊彦多久市長

道守佐賀会議

道の絵コンテスト表彰式

道守佐賀会議で行った「道の絵コンテスト」の表彰式を行った。佐賀県内の小学生から大人まで募集を行い、応募された総数179通から優秀作品を選定した。審査員を務めた山田直行佐賀女子短期大学学長は、「小中学生からは夢のあるカラフルな作品、表現豊かな道と自然を感じる心、大人の作品からは人生の哲学やその人その人の豊かな人生観、家族の温かさを感じさせる作品が目立った。」と講評した。

道守佐賀会議では、「道守」をもっと若い世代に知ってもらおうと、道の絵（ハガキサイズ）を募集を企画。身近な道を様々な視点から捉えた作品に驚かされた。道をテーマとした企画でもっと多くの方に「道」を考え、伝えてもらいたい。



「道」は世代を越え、人々の笑顔が集まる場所だから。

受賞者の声

一般の部 最優秀賞

樺島 永二郎さん

（佐賀県多久市）



この絵は、夕方に親子が家路を急ぐ姿を描いています。帰

道は親子の絆にとって非常に心地よく、大切な時間を与えてくれます。私は今、多久市PTA会長を務めており、日々、子どもたちの成長と健康を見つめています。これからも笑顔や笑い声が絶えない道、地域に密着した道を大切にし、子どもたちにも伝えていきたいと思っています。



～受賞作品～

受賞された作品は、国土交通省佐賀国道事務所のホームページで公開しています。
(http://www.gsrmlt.go.jp/sakoku/activity/michimori/road_e.html)

パネル・フロア
ディスプレイ

■パネリスト

道守ふくおか会議
道守佐賀会議
道守長崎会議
道守くまもと会議
道守大分会議
道守みやざき会議
道守かごしま会議

山田三代子さん
日隈 諒さん
宮田 隆さん
岡田敏代さん
古庄京子さん
新名典忠さん
神田橋万聖さん

佐賀大学監事 川上義幸さん

■コーディネーター



川上 平成10年にNPO法ができ、地域の方が活用しやすい仕組みができ、お互いが進化してきた。今日はそれぞれの各県で活躍されている皆さんに活動紹介・提案をいただきたい。

宮田 岡本院長から講演があった東日本大震災、私もバスで南三陸町に行ってきた。その姿はまさに壮絶。道も死んでいる。命の道、自分たちで作る道、そしてそういうものをどうやって維持するか、つくづく考え、道のありがたみ、重さを感じた。

日隈 私は佐賀の大学生で商店街にサ
テライト施設を作り、若
者と街をつなぐ架け橋と
なる団体で活動してい
る。道ができるには人が
存在して、またその土地

に愛着があり、より良くしていきたい
と思うからこそ道を造っていくんだと
私は思う。自分たちの街に愛着を持つ
ような、また持つてもらえるような活
動を目指したい。

若者と街をつなぐ架け橋に

に入り、我々にできる活動を聞いてきた。今、八代駅で鉄道会社のグッズを販売し、支援を訴えている。

神田橋 町内会を始め、老人会や企業などの団体が協力して国道の手入れをバラで有名な大隅半島にある町で行っている。なかなか広がりを見せずにもう少しという気持ちがある。好意的に皆さんが感じているが、参加者の固定化が進み、これからの課題。

新名 道守活動の課題は、人材、高齢化、固定化。そして財源。宮崎では社会実験として花壇に企業広告を設置

し、来春から本格的な始動につなげていく予定。道守のそれぞれのつながりとともに、このようなシステムの継続、そして人のつながり、絆の輪を広げていきたい。

古庄 道を早く作ってくれという要請活動から、道づくりは人づくり、人づくりは道づくりと気づき、道守会議に出会った。他の団体の方と行動しながら道路の草取り、花植えを楽しんでいる。地域の子どもたちが私たちの後ろ姿を見て、道は自分たちで守ることを感じてくれ、道守に参加してくれた。

交流集会

交流会後の交流集会。総勢230人余りの道守が集合した。会場ではすでに各県会議の活動の様子などを情報発信する「道守屋台」が熱気を帯びていた。

冒頭、牟田薫佐賀県副知事の挨拶から始まり、食事をしながら「道守屋台」を見学した。各県とも活動内容のパネルや地元の名産品を披露。そこら中で人混みができ、意見交換、そして笑い声が響き渡った。

今回の佐賀県での開催で、九州全県にて「みちづくし」を行え、各県より九州一周の思い出話、苦労話を聞かせてもらった。佐賀会議からはお花、各



熱気あふれる道守屋台



現地体験学習会

〜シュガーロードと
えべっさん〜

北九州から長崎まで続く長崎街道。25の宿場で繋がれ、約224kmの道のり。現代、シュガーロードと呼ばれている。海外から渡ってきた砂糖を使い、佐賀に名物菓子がたくさん生まれた。また、佐賀市は「えべっさん」（恵比須像）が800体以上あり、その数、日本一。道沿いにある「えべっさん」は市民に身近な像として親しまれている。学習会には40名余りが参加し、休憩に立ち寄った甘味処では佐賀の銘菓に舌鼓を打った。ガイドの話に耳を傾けながら、長崎街道の歴史、商売の神様「えべっさん」にまつわるエピソードを聞き、佐賀市内を学習した。



嘉瀬フラワーロードと
ブルーインフェスタ

早朝6時、30名弱が集合。一路バスで会場へ移動。車中で佐賀会議の「嘉瀬フラワーロード作戦会議」の松本さんより取組事例の紹介。

現地では1km以上に渡り、コスモスが満開で、パルーンの選手と観客を楽しませてくれる。

通常10月上旬に開花するコスモスを長年の経験と知恵でバルーンフェスタに合わせて咲かせた。一斉に飛び立つバルーンとコスモスが美しい佐賀の朝であった。




が将来の道づくりにつながる。

川上 道守の第二ステージでは、まず、関係者を増やさないといけない。「老・中・若」、幅広い三世代共同参画で広がりを見せないといけない。その関係者をつなく、つなぎ役が必要。それをどうやって育てるか。また現実的な話では、お金がないとなかなか回らない。志、夢を片手に持ったら、もう一つの片手にはそろばんを持って継続的な仕組みが必要。各団体にはノウハウがあるので、色々な知恵をお互い情報交換しながら良い形で第二ステージの道守会議が進むことを祈念する。

基調講演、対談、パネル・フロアディスカッションの詳しい内容は、道守九州会議のホームページで公開しています。
(<http://www.qsr.milt.go.jp/n-michi/n-michimori/>)



野田恵美子さん

「道守かごしま会議」も地域でしっかりと根を生やして育てていこうと、毎年、総会とは別にプロックごとに集まる「道守かごしま座談会」を開催しています。道守会員だけでなく、県の地域振興局を通じて、コミュニケーション活動をしている方々にも広く参加を呼びか



一本一本ていねいに

2008年11月 末に開催された「みちづくしin鹿児島2008」では、二日目に「みちづくし」としては初めての試みとして、道守さん達に直接、沿道に記念の苗木を植えてもらうという「かごしま風景街道・体験学習」を行いました。その時に、植樹記念会場以外にも県内あちこちらの道守さんの手元に苗木が届けられ、今でも大切に育てられています。

地域に根ざして

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。



わたしの好きな道

今と昔を繋ぐ橋「新萩原橋」

八代の自然とまちが会う場所

日本三大急流に数えられる球磨川が八代平野に流れ出てくる最初の橋「新萩原橋」(八代市)は、国道3号線と国道219号線が交わる八代市萩原町に架かり、八代の北と南を結ぶ交通の要衝です。

新萩原橋の上に立つて辺りを見回してみると、東側には八代の郷土の民話「彦一ばなし」にも登場する竜峰山(りゅうほうざん)が見えます。竜峰山は八代神社の祭神である妙見神に同伴してきた竜が昇天したことからその名がついたといわれ、「朝日に染まる竜峰の」とか「明けゆく空に竜峰の」等、八代市内の学校の校歌にもよく登場し、市民に大変親しまれています。天気の良い朝に橋を渡りながら竜峰山から朝日が昇る様子を見ると、大変清々しいものです。一方、西側には「不知火(しらぬい)」で知られる八代海や宇土平島が見えます。家路につくときに八代海に沈む夕日と工場のシルエットを見ていると、明治時代以降、工業都市として栄えた八代のどこか懐かしい一面を見ているような心持がするものです。

また、橋のそばには八代駅があり、開業して早1年になる九州新幹線や肥薩おれんじ鉄道の軌道、さらに九州自動車道が見えます。新萩原橋は八代に住む人だけでなく、縁あって八代に来た方たちを迎え見送ってくれているような気がします。八代の今と昔、そして山・川・海やまちが心の中で一気に繋がる新萩原橋。いつ通っても新鮮な発見がある私の大好きな道です。



プロフィール

岡田敏代 (おかだ・としよ)

NPO法人ネット八代理事長。肥薩おれんじ鉄道八代駅駅長。道守花壇の運営など、住民が主体となった地域づくりを行っている

住みよいまちづくりをめざして

大始良経済文化同友クラブ

鹿児島



本クラブは、大始良地域の経済、文化の発展と活性化に寄与するとともに、各種団体との交流や会員の親睦を図ることを目的に平成3年4月に発足し、会員数は100名(平成23年5月1日現在)です。

県道540号線・73号線沿いのバラ剪定や追肥、草刈り、空き缶拾いや大始良川美化活動等、住みよい地域づくりの推進を地域住民の方々と連携を図り行っています。

中でも、市道の通学路で道幅の狭い箇所、市から側溝蓋を提供して頂き蓋をかぶせて道幅を広げて生徒たちが安心して通学できるように道幅を確保したり、市道脇の空き地にひまわりを植えたりして住民の方に喜ばれるような活動をしております。

(東 道大)



福岡



クラブワールドピースジャパン 福岡支部

老若男女、誰でも参加出来る
道守活動を目指し続けています

クラブワールドピースジャパンは、次世代の育成のために取り組む中学生が立ち上げた国際ボランティアグループです。

ゴミ問題を解決するために「多くの方々に河川・道路等へ目を向けてもらおう!」という主旨から北九州市戸畑区・小倉北区にまたがる河川・道路において「海とふれあいプロジェクト 中原海岸周辺清掃」を開催しています。

河川・道路等に不法投棄・ポイ捨て等が増えていることから、平成23年4月、北九州市道路サポーター制度に登録してから2ヶ月に1回程度で地域の方々・学校・企業・市役所等の参加により定期的に清掃活動を行なっています。

また、河川の下流においては国指定重要無形民俗文化財 戸畑祇園大山笠のお汐井汲みの場・それに続く道路を抱える地域にとって、これらは貴重な地域資源です。



地域内の環境保全・美化対策には、私たちの取り組み活動がきっかけとなり、地域の老若男女が協力して活動の周知を図り、交流の輪を広げ継続・実践していきます。

(池本真二)

佐賀



花物語シンボルロード編実行委員会

障害者と健常者の垣根を越えて

J R佐賀駅から北堀端の佐賀郵便局迄の約1.5km、通称中央大通りの中央部唐人町地区と駅通り地区で活動しているのが、花物語シンボルロード編実行委員会です。会員は同地区に所在している総ての企業、商店、個人が対象でマンションも含まれます。知的障害者施設の富士学園で育苗された苗を富士学園の園生と地元会員が一緒に植え替えをし、地元会員が愛情を持って育ていくことで障害者と健常者の相互理解を促すというコンセプトが評価され、平成9年に建設大臣表彰をうけました。年間3回の植え替え時には200名の会員に自分の店や家の前の鉢・プランターに植える苗をそれぞれ取りに来て貰い、各店や家の前の鉢へ植え込み、その後、水やり、施肥、害虫の駆除など自立した活動をしており



2011年5月14日 ポーチュラカの植え込み

ます。昨年から地元自治会子供会も参加して貰うようになり、今後とも心優しい花作りを目指して行きたいと思っています。

(副島 勉)

長崎



NPO道守長崎

坂のまち長崎で自転車塾

近年、地球温暖化などの地球規模の環境問題への対応が、未来に向けた重要な課題として浮上しています。

二酸化炭素排出量を削減するために

は、マイカーの利用を抑え、坂のまち長崎であえて自転車利用を促進するための方策について研究することを目的とし、活動しています。

活動内容の一例で、長崎市内を実際に自転車に乗って現地調査を行い、自転車を利用することが出来る道路区間の具体的な状況や問題点等の把握などを行っております。

(村里 静則)



女神大橋を渡る



出雲町の坂を走る

熊本



麻生田1町内自治会

美しいまちと共に暮らす喜び
仲間の輪広がる

熊本市街から北東部、国道3号線熊本北バイパス沿いに私たちの運営する道守花壇があります。平成19年より道守花壇の活動を始め、女性部の方々のご協力により、年2〜3回の花の植え替え作業のほか、随時、除草作業やゴミ拾い等に励んでいます。通勤・通学路でもあるこの道を美しくすることで、通る人に道への関心を持つてもらい、ひいては交通事故防止にもつながるの思いで汗を流す毎日です。

また、花壇での作業以外にも諸々の活動を通じて、明るく、楽しく、安心安全で住み良い町づくりを目指して、切磋琢磨しながら子供や老年寄りに優しく、温かい気配りと仲間作りに努力しております。



日頃は、一人で生活されていらっしゃるお年よりの皆さんが、麻生田1町内で暮らせる喜びを感じ、また喜びを施せる仲間の輪が広がることを願っています。

(川野操)

大分



イオンパークプレイス大分店

全国でゴミ収集や清掃

エコロジー(環境)とローカル(地域還元)をテーマにお客さまとともに地域社会の一員として社会貢献活動を行っています。イオンと専門店の従業員の有志が店舗周辺を清掃活動する「クリーン&グリーン活動」と地域のボランティアをお客さまとともに応援する「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン活動」を行っています。



また2002年1月からは国土交通省の「ボランティア・サポート・プログラム」とタイアップした「イオンクリーンロード活動」も展開。店舗周辺の国道などを対象にゴミ収集や植樹帯の清掃を全国のイオンで行っています。

宮崎



荘内商工会女性部

小さなうねりから大きなうねりへ

道守みやぎ会議の今年度のテーマのひとつである「県内西部ブロックへの道守の輪の拡大」を目的とし、10月8日(土)に「道守みやぎぎ会議交流会2011」が都城市庄内町の町家カフェ「もちなが邸」で開催されました。

もちなが邸で町家カフェを営まれている蒲生芳子さんをはじめ荘内商工会女性部の方々が新たな道守さんとなり、道守みやぎぎ会議、大学、行政を含め総勢50名が参加しました。

交流会は、第一部で「石垣のまち」荘内地区のまちを巡り、第二部では花の植栽活動と蒲生芳子さんのご主人を講師に蕎麦打ち体験を行い、花植え後にみんなで蕎麦を頂きました。

蒲生芳子さんは、今回、宮崎県の支援事業である「みやぎクリーンロード事業」に商工会女性部として申請し、「一過性のもので終わらないよう花の管理を行い、今後、地元の子供達などに花植え体験をしてもらい拡大していきたい。」とのお話がありました。交流会で地域の



花の植栽活動の様子

人と出会い、地域の特色を知り、一緒に道守活動を体験することが、更なる交流拡大へ繋がっていくことを願います。

(道守みやぎぎ会議事務局)



道守の輪

佐賀城下ひなまつり清掃活動 （気持ち良く散策を）

道守佐賀会議では、「佐賀城下ひなまつり（2月18日～3月31日）」に来場される皆様に「気持ち良く散策をしていたらどう」と2月11日（土）朝9時から約1時間半、会場周辺の清掃活動を行いました。

平成17年から毎年続き、今年は第8回目。佐賀市の市報、新聞への個別掲載依頼、公民館へのチラシ配布、みちづくしでお手伝いを頂いた皆さんへの口コミなど幅広く活動周知。回を重ねるごとに市民の方々に定着してきました。今回は道守



会員より一般の方が大幅に増え、総勢200名が大集合。約20袋分のゴミが回収できました。子どもたちにもゴミを捨てない心、大事さが教えられたと信じています。「おもてなしのこころ」があふれるこの佐賀に、是非お立ち寄りください。

おもてなしの心で マラソンコースの清掃を実施！

道守ふくおか会議が主催者となり、12月4日（日）に開催された「第65回福岡国際マラソン」に併せて、おもてなしの心でマラソンコースの清掃を実施しました。主な実施者は「名島校区 花の架け橋実行委員会」、「けやき通り発展期成会」、「ふっこくボランティア」の3団体ですが、それ以外の団体、個人会員の方々も参加して頂きました。マラソンに参加される選手の方々や沿道で応援される観客の皆様が気持ち良く競技し、また応援できることを願い、一昨年に引き続き昨年



「名島校区 花の架け橋実行委員会」の清掃活動の様子（国道3号 名島橋）

年も参加団体を徐々に増やしていくことによって、活動を盛り上げていければと考えています。

『宮崎県内道守一斉活動』 県内14箇所で開催 昨年度の6割増！

道守みやざき会議は、毎年10月第3日曜日を「道守の日」と定め、10月を宮崎県内道守一斉活動月間としています。この取り組みは今年で6年目を迎えて、昨年度の6割増の県内14箇所で開催されました。今後も県内全域への道守活動の更なる普及・浸透・拡大を目的に継続していききたいと思っています。



「326号線を守る特別隊」の皆さん

北九州市道路サポーター制度が 「新たな仕組みづくり」へ

第7回北九州市道路サポーター総会が2月8日（水）に開催されました。この総会は活動団体からの7名の委員と市の事務局による「実行委員会」で企画

は初めてでした。その結果、「新たな仕組みづくり」への賛成が、「どちらかというと賛成」を含め67%にのぼり、

現在の支援に対しても「自主的な活動なので、今の支援で十分」など、ボランティア意識の高い、多くの活動団体の存在を、改めて知ることが出来ました。

第7回総会での議決を受け、実行委員7名に、2名の新委員を加えた9名の実行委員と市の事務局とで、来年度の第8回総会に向けて、『新たな仕組みづくり』が始まるうとしています。それぞれの活動を踏まえて、白熱した議論が続くことでしょう。

これからも市民と行政が協働で、ますます道路サポーターの活動の輪が広がっていくような、持続可能な仕組みづくりを、実行委員会は目指しています。

乞うご期待！

ブログやfacebookで 新しい道守広報活動

道守大分会議では、「少しでもお金をかけずに、多くの方に道守会員さんの活動を知ってもらうためにどうしたらいいか？」と考え、まずはローコストのブログを開設し、道守の歴史や活動のピックアップから始めてみまし

た。

毎日当たり前に行っているゴミ拾い活動などは、新聞記事にはなりません。が、ブログにはとっては最高の一面記事となります。写真付で活動をご紹介しますことで、「日頃の活動に張りが出てまた頑張れます！」とか「季節が変わったら風景が変わるのでまた写真送ります」など、今まで交流できなかったことも出来るようになりました。事務局自身、会員の皆さんの活動を良く知ることもできました。また、ブログ記事を読んだ方からは、「恥ずかしながら、道守」と言う言葉を初めて聞きました。いい活動ですね」など声をかけられることも多くなりました。

これを期にさらにインターネットの検証も兼ねて行ったのが、「第3回マイツリー会員の募集」の告知です。

広報媒体としては、信頼性のある媒体として「市報」、期間限定だけど即効性のある「ラジオ」、奥行きのある情報として「ブログ」の3方向で告知を使い分けてみました。

結果、市報からラジオで見聞きし、より詳しい情報を知るためにブログを見に来たという方が大半でしたが、うまくメディアミックスできたと思います。応募者のうち、約半分がブログを見てインターネットを通じての応募で

した。

とはいえ、年配の方、インターネットに無関心の方もまだ多いですが、今後の道守活動を維持していくために、コミュニケーションを図る欠かせない重要なツールになることは間違いありません。

道守大分会議では、一方的な配信のブログに留まらず、facebookのようなSNS（ソーシャルネットワークサービス…交流サイト）で、仲間即座に「情報を共有」、連鎖して「人に伝える」しくみを、新たな道守の広報媒体として活用していきたいと考えています。

詳しくは「道守大分会議」で検索！
<http://michimori.org/>
（道守大分会議事務局・木ノ下結理）

（平戸の歴史を訪ねて） 初のながさきサンセット ロードバスツアー開催

秋の行楽シーズンに、日本風景街道「ながさきサンセットロード」の取組みや、ルートすばらしさを皆さんに知っていただくため、バスツアーが開催（10月22～23日）されました。日帰り・宿泊コースともに長崎駅前を出発し、平戸城や平戸ザビエル記念

運営されています。登録団体にとっては、かけがえない情報交換や交流親睦の場となっています。

今回の総会の



特徴は、「道路サポーターの運営に関する新たな仕組みづくり」が議案として提出され、賛成多数で議決したことです。

総会開催に向け、前年の夏から実行委員会が動き出しますが、市の事務局より、「新たな仕組みづくり」の提案説明が、それぞれの実行委員にありました。登録団体は年々増え続け、181団体、約10,000名を越え、活動形態・抱える課題も多種多様です。市への支援や要望も一層多岐に亘っている中、行政だけでなく、活動団体も一緒に課題を考えていく仕組みづくりが必要ではないかとの内容でした。その趣旨に、全実行委員が賛同し、総会の議案提出に向け、「新たな仕組みづくり」の検討が始まりました。

まず、実態を把握するため、全登録団体にアンケートを実施し、その結果を踏まえて、意見交換会を市内各区で開催しました。各区ごとの意見交換会



ボランティアガイドによる町歩き風景

教会、平戸オランダ商館など、地元ボランティアガイドの皆さんの案内で観光して周り、平戸くんち城下秋まつりの南蛮カレーなども楽しみました。

宿泊コースは、翌日、生月島で捕鯨やカクレキリシタンの歴史を学び、地元漁師さんの料理を堪能し、帰りでは「ながさきサンセットロード」魅力の一つである長崎市西岸に広がる角力灘に沈む美しい夕日を見ることができました。

この「ながさきサンセットロードバスツアー」は、NPO道守長崎が実行委員として協議を重ね、目的地や募集方法などをお手伝いし、今回、初めて長崎から平戸までのバスツアーを試みました。

参加された方々のアンケートでは、今回のバスツアーに、約7割の方が「満足」との意見も伺っており、地域との交流を通じて地域活性化の一助にもなったと思います。

（NPO道守長崎・阿野 史子）

九州風景街道フォトコンテスト 九州グランプリ決定

●道の景観部門

部門大賞
「マジックアワーに向かって」
ながさきサンセットロード

撮影場所：長崎市女神大橋
撮影者：岡部 誠二（長崎市）



●人・歴史・文化の景観部門

部門大賞
「パワー下さい」
豊の国歴史ロマン街道

撮影場所：宇佐市宇佐神宮
撮影者：三浦 誠（北九州市）



●自然風景の景観部門

部門大賞
「夏山をゆく」
九州横断の道 やまなみハイウェイ

撮影場所：大分県九重町九重山
撮影者：宮地 敏雄（佐賀市）



●審査の総評

審査の結果、フォトコンテストにおける九州グランプリは「新緑の下で遊ぶ」を選出しましたが、これは皆様の選定とも一致してまいりました。予想通りの結果となりました。各部門についても皆様と相違したところはありませんでしたが、ほぼ全体的には収斂した結果になっています。皆様からみた感じで写真としての構図が良く撮られていると思われる中でも、良く見ると写真にブレ、ヒズミ、キズが指摘できるものがありました。



640点から選定

九州10ルートと（一社）日本風景街道九州ネットワークが協働で実施した九州風景街道写真コンテストが、1年にわたる活動の成果として、九州グランプリを選定しました。これは、九州風景街道のPRや資源発掘などを目的に、平成23年3月から約一年かけて各ルートの四季の写真を募集したもので、応募総数約640作品の中から、10



ルートでの審査を経た入選作71作品を対象に審査を行ったものです。審査は、平成24年2月17日に東島審査委員長に7名の審査員によって厳正なる審査が行われ最優秀賞、部門大賞、特別賞など11作品が選定されました。今後、これらの応募作品は、写真展示巡回展によるPRなど多様な活用を検討していく予定です。



最優秀賞
「新緑の下で遊ぶ」
豊の国歴史ロマン街道

撮影場所：福岡県築上郡「メタセの杜」裏
撮影者：三浦 誠（北九州市）

■「日本風景街道九州ネットワークの集い」開催

平成23年12月12日、九州風景街道のルート関係者及び行政関係者の方々と、（一社）日本風景街道九州ネットワークとの集いが開催されました。

九州ネットワークは、九州風景街道推進運動に関する調査・研究や支援・広報活動を行ってきておりますが、今回の集いでは、九州ネットワークの活動報告に始まり、各ルートでの活動の課題や今後の展望などについて忌憚のない意見交換が行われました。

九州ネットワークからは、資源カルテや評価に関する検討、フォトコンテスト実施などの活動報告がありました。意見交換では、活動資金や活動の停滞などの問題も提示されましたが、

一方では新たな活動への取り組みや広がり、事例報告もあり、今後とも連携を図りながら活動していくことが総括されました。



九州風景街道をゆく

桜島—鹿児島—指宿—南さつま

波静かな錦江湾に浮かぶ桜島、たなびく噴煙を見ながら、温泉地、指宿、さらに鑑真和尚がたどり着いた坊津に向かう「かごしま風景街道」。九州新幹線が全面開通して、鹿児島は観光客で賑わう。お正月の「菜の花マラソン」から、早い南国の春を満喫できる「かごしま風景街道」の人氣は高まるばかり。NHK大河ドラマ「篤姫」をきっかけに西郷隆盛、大久保利通など明治維新の志士たちや鹿児島を新婚旅行した坂本竜馬が歩いたであろう歴史の道を訪ねる人も多い。鹿児島で風景街道づくりに汗を流す人々の取り組みレポートをお届けする。

●とにかく自然景観が自慢の風景街道

かごしま風景街道の特徴は、まず4つのブロックに分かれての活動であることです。それぞれについての詳細は後述しますが、北から桜島ブロック、鹿児島ブロック、指宿ブロック、南さつまブロックに分かれています。また、それぞれにはブロックの活動をコーディネートする団体があることも特徴のひとつといえるでしょう。さて、みなさん鹿児島といえば、まず何を連想するでしょうか。ほとんどの人が桜島と西郷さんではないでしょうか。その次ぐに焼酎や黒豚、温泉がくるのでしょうか、かごしま風景街道には、このうちの桜島と温泉、時々懇親を深める場に焼酎や黒豚、歴史を語る際に西郷さんといった割合で、代表的な事例が大きく関与しています。では、それぞれのブロックごとに活動や風景の魅力をご紹介します。

●桜島ブロックは、やっぱり活火山

最近活動が活発化していて、災害の心配も出ていますが、それでも桜島は鹿児島にひとつとしてはなくてはならない存在のひとつです。特に活動が激しいのは、昭和21年に溶岩も流出する大噴火を起こした昭和火口付近で、今年の1月と2月のみで258回も噴火しています。また周辺の住民にとっては降灰の影響もあり、大変な生活を強いられています。そんな活きた火山の風景をまわったり活動で県内外の人々に伝えようとしているのが、桜島ブロックをたばねるNPO法人桜島ミュージアムです。この法人は、もちろん桜島の拠点を置きながら、桜島の成り立ちを紹介する活動はもちろん、桜島ならではの体験メニューを充実させながら、市民に限らず観光客を喜ばせています。特に桜島のオリジナルといえるような有村海岸での足湯掘り体験は人気メニューのひとつで、干潮の時間を利用して自分だけの足湯に浸かってもらいます。この他にも風景街道にとっても大切な景観保全にも尽力していて、定期的な清掃活動や史跡などの環境整備にも協力しています。

●こどもががんばっています

桜島を眺めるのであれば、鹿児島市街地から海越しが素敵という人も多いのでは。その利点を活用して、さらに景観づくりや風景も魅力を児童や生徒がガイドとして参画する場づくりを推進しているのが、鹿児島ブロックです。特に、かつては鹿児島市

街地の中心を流れていた甲突川に架かっていた石橋が移設保存されている公園の石橋記念公園に所属する子どもガイドは、とにかくパワフルで面白い活動をしています。まずは基本となる石橋記念公園からの桜島や石橋に関する知識を観光客や市民に対して、自ら勉強して披露することです。子どものガイドには定評があつて、それを目的にこられる観光客もいるほどです。また、景観づくりに地域の高校生なども加わりながら、花を植えたり周辺の清掃をしたりして、地域を美しく見せることにもがんばっています。活動は、鹿児島に限らず、同じような石橋が点在している熊本県の山都町にも出かけて、向こうの子どもガイドとも交流したりしながら、鹿児島の石橋や景観についても幅広く勉強しています。

●火山地形の美しい指宿

風景街道はどちらかといえば、道路が中心ですが、現在の指宿は列車が特に注目されています。ただ、列車に限らず指宿の良さは車窓からの眺望にあるようです。まず鹿児島湾と錦江湾をずっと眺めながら、鹿児島市街地から南下することになります。これは国道も同じで、特に指宿市内に入ると大河ドラマで全国区になった篤姫ゆかりの今泉地区からは、保全された松林がやさしく訪れる人々を迎えてくれます。そうした保全活動に取り組んでいるのが、指宿ブロックをたばねる指宿商工会議所です。多くの旅館やホテルも加盟していることから景観づくりには積極的で、魅力のある看板設置にはこれまでも取り組んできています。さて、指宿の魅力といえば、

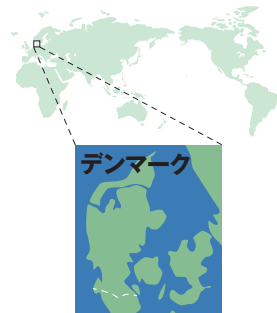
●夕日の美しい東シナ海

南さつまブロックは、鹿児島県では西側に位置することから夕日の沈む地域としても知られています。それだけに、この地域の風景街道を楽しむには夕日の時間が一番といえるでしょう。特に西側に突き出た笠沙半島は、リアス式海岸も同時に楽しめて、鹿児島の言葉では「なんつあならん」（なんともいえない）眺めを楽しむことができます。そんな地域の風景街道を面白くするのは、NPO法人エコリンクアソシエーションです。この法人は教育旅行の受入に尽力していて、鹿児島の景観を児童や生徒たちに知ってもらうことに力を入れています。最近、鹿児島に来る学校も増加して、より一層、鹿児島の風景をまるで故郷のように感じてもらえる人々を増やしています。

このように、かごしま風景街道は多様な活動に支えられて、鹿児島の魅力や交流人口の増加、さらにはおもてなし活動を充実させようとしています。まだまだの部分もあるかもしれませんが、ぜひ鹿児島の風景を楽しみに、また食や温泉、歴史も堪能しに来てください。お待ちしております。

(東川美和)





安全で快適に自転車からの風景を楽しめるデンマーク!!

世界一の自転車大国といえば、オランダを思い浮かべる。しかし、デンマークも人口あたりの自転車の保有者数は多く、自転車利用環境も充実している。現在、わが国では接触事故の多い都市での歩行者と自転車の分離する整備を進めているが、デンマークでは、会話ができて、安全に追い越せる幅員2・2mを標準として、多くの都市で自転車道が整備されている。さらに、1993年に全国レベルの広域的な自転車道が11ルート（総距離4233km）指定されている。海岸沿いのルート、国土を縦断あるいは横断するルート、フィヨルドや島を周遊するルートなどがあり、最も短いルートで105km、最も長いルートは650kmにも及ぶ。

デンマークでは土地利用規制が厳しく、農地と森林が国土の約80%を占めている。各ルートには、美しい農村風景、牛や馬が放牧された牧草地、森林、河川や海岸などの豊かな自然環境が多くみられ、その中の所々に古城などの史跡をみつけることもできる。道路自体は車道沿いなどに整備された自転車専用道もあれば、森林内などには舗装されていない道路やシーニック・ルートであるマーガレット・ルートと重複する自動車と共存する道路もある。ルート上には自転車



自転車とマーガレット・ルートの案内標識



自転車専用道路を走行するツーリスト（郊外部）



海岸線沿いルートの風景

マークのある標識が設置されている。もう一つの特徴として、日本のサイクリング・ロードといえ、その多くは河川敷に設定されているのに対し、これらのルートは各地域の自転車道や都市部の自転車道とつながっており、ネットワーク化されていることである。確かにデンマークは国土に山がなく平坦であり、地形的には国土全域で自転車を利用しやすい環境であるといえる。さらに、鉄道やフェリーなどの公共交通機関には自転車に乗せるスペースが確保されており、料金を支払えば、折りたたみなどの手間などはいらず、そのまま乗せることができる。移動も含めた複数の交通手段の利用がスムーズにできる。したがって、自転車は近距離のみならず、長距離移動でも利用できる環境が整っている。気候のいい時期になると、郊外部では多くの人々がグループになって自転車後部の荷台に大きな荷物を載せて自転車に乗っている姿をみることができる。彼らは、目的地に向かう途中の風景を自動車からみたものとは一味違った感覚でゆったりと楽しんでいるようである。



プロフィール
梶田 佳孝
九州大学大学院工学研究院助教。博士（工学）。九州大学大学院工学研究科修了。都市計画、交通計画を専門とする。



ルートの案内標識（下）



自転車専用道路沿いの案内標識

道守たちのトピックス



桜の植栽（H24.2.26）



「訪れる人々を美しい風景で感動させたい。」として「自分たちの手で自分たちの暮らす地域をきれいにしたい。」という皆さんの思いが伝わる取り組みです。桜並木が顔を出す春が楽しみです。（道守みやざき会議事務局）

桜よ、よみがえれ!! 峠の桜を守る会

宮崎・国道220号堀切峠付近の道路周辺に植えられた桜の木を手入れし直し、補植し、桜咲く景観を再生しようと活動をしている「峠の桜を守る会」の呼び掛けで、平成23年11月27日に桜に巻いたカズラの除去・周辺の除草作業、平成24年2月26日には、桜の植栽が行われました。

「青島地域まちづくり推進委員会」を中心とした周辺住民の皆さん、「峠の桜を守る会」「コバノセンナを育てる会」の宮崎交通の社員、OBの皆さん、及び行政機関の職員等延べ約100名の方々が参加しました。

「点と点を結ぶ道と、そこから見る風景をきれいにすることはとても大切。訪れる人達はそれが楽しみでもある。また、メンバーも高齢化する中で、若い人達も多く集まってもらえるのがとても頼もしい。」と峠の桜を守る会、コバノセンナを育てる会の長友睦郎氏。

道守 人物伝

道・緑・人（仲間）と共に共存し、充実感のある活動をしたい

大分市明野 大津悦子さん（68歳）

大津さんは、県や市の事業推進員を務めたり、テレビのモニターなどを通じて、社会や行政に自分の経験・意見を伝える役目を率先して行い、生きいきとパワフルに活動し、とても輝いている女性です。10年前に定年を迎え、その後の人生は、恩返しに「社会貢献をしよう」と、これまで多々ボランティアにも参加。しかし、思いとは裏腹に行政主体の構成だったり、グループの高齢化ということで、自然消滅することに意欲を無くしかけていました。

そのとき、「集団でないと出来ない...ではなく、一人でも出来ることをやろう!」と決めたそう。「無理がなく、身近なことから自然な行動をすることが、楽しく・長く続ける秘訣となり、道路や草取り活動などの清掃をすることで、自分自身の心の中が洗われ健康になる気がします。」

道守活動を通して、道の大切さ、緑の素晴らしさ、また、自分の培ってきた知恵や経験を次世代の子どもたちに伝えていき、頼られる高齢者になりたい。」そう、大津さんは笑顔でお話してくださいました。



横顔

九州地方整備局（新）道路調査官

横峯 正二氏



横峯調査官は平成23年9月より延岡河川国道事務所から就任。鹿児島県出身で大胆な発想の持ち主でありながら緻密さも兼ね備えている方です。平成15年には有明海沿岸道路出張所長として柳川市の道守活動にご尽力頂き、その後の赴任地でも多くの道守の方々と交流を深めて来られました。今後も引き続きより良い関係を目指して頑張りますとのことでした。

九州地方整備局（新）道路管理課長

菅 伊佐男氏



菅課長は平成23年9月より防災課から就任。九州の道路を安全で安心して走行できるように大雨時や降雪時も含め日夜、奮闘されています。福岡県出身で登山とマラソンをこよなく愛し、自宅の農園で野菜を育てておられるなど自然相手に奮闘されています。九州の道路のあり方について多くの道守の方々と交流を深めたいと意欲的です。

九州国道協会	(社)日本道路建設業協会 九州支部	(社)九州建設弘済会
九州電力(株)	(社)プレストレストコンクリート建設業協会九州支部	福岡県道路協会
福岡市道路利用者会議	(社)福岡県建設業協会	佐賀県道路愛護協会
(社)佐賀県建設業協会	長崎県道路協会	(社)長崎県建設業協会
熊本県道路利用者会議	(社)熊本県建設業協会	大分県土木建築協会
(社)大分県建設業協会	宮崎県道路利用者協議会	(社)宮崎県建設業協会
鹿児島県道路利用者協議会	(社)鹿児島県建設業協会	建設サービス(株)
長幸建設(株)	NTTインフラネット(株)福岡支店・熊本支店・鹿児島支店	大日コンサルタント(株)大阪支社
九州みちの会	みちを考える会	いであ(株)九州支店
鳥城塗装工業(株)	(株)荻島組	(株)オリエンタルコンサルタンツ九州支店
川田工業(株)九州営業所	九州地区道路利用者会議	(株)橋梁コンサルタント福岡支社
(株)ケー・シー・エス九州支社	(株)建設環境研究所九州支社	(株)建設技術研究所九州支社
(株)建設技術センター	(社)建設コンサルタンツ協会九州支部	(株)駒井ハルテック九州営業所
新構造技術(株)九州支店	新日本技研(株)福岡支店	(株)総合技術コンサルタント九州支店
瀧上工業(株)福岡営業所	(株)長大福岡支社	(株)東亜コンサルタント
東急建設(株)九州支店	(株)東京建設コンサルタント九州支店	(株)都市開発コンサルタント
(株)名村造船所福岡営業所	西日本技術開発(株)	西日本新聞エリアセンター連合会
日鉄鉱コンサルタント(株)九州支店	日本工営(株)福岡支店	範多機械(株)福岡営業所
(株)福山コンサルタント	(株)ぶぜん街づくり会社	復建調査設計(株)九州支社
前田建設工業(株)	宮地エンジニアリング(株)	クラブワールドピースジャパン福岡支部
そうじの会（多久の未来を創る会）	農事組合法人そよかぜ館	葉隠会道守部会
扇精光(株)	(株)西海建設	宅島建設(株)
川田建設工業(株)	(株)九州開発エンジニアリング	(株)水野建設コンサルタント
(株)ヤマックス	(株)高山組	九建設計(株)
九州建設コンサルタント(株)	(株)センコー企画	(株)玉の湯
(株)地域科学研究所	(株)友岡組	(財)日本造園修景協会大分県支部
(株)野村建設	(株)九南	太陽技術コンサルタント(株)
(株)日高時計本店	宮崎空港ビル(株)	(株)宮崎産業開発
朝日開発コンサルタンツ(株)	(株)アジア技術コンサルタンツ	ウエノ・コンサルタント(株)
鹿児島土木設計(株)	(株)建設技術コンサルタンツ	大福コンサルタント(株)
南生建設(株)	(株)みともコンサルタント	(株)新日本技術コンサルタント
三州技術コンサルタント(株)	(株)萩原技研	

道守通信 編集後記

○「「みちづくしin佐賀」大会は、素晴らしかったですね。佐賀の道守さんたちの、手作りで、おもてなしの心あふれた大会運営は、九州各地から集まった道守の仲間を感動させました。交流会も大変な盛り上がりで、手を繋ぎ、未来の道守活動をしっかりと見つめた会合になりました。佐賀の皆様、ご苦勞様、そしてありがとうございます。

○「佐賀大会で、熊本に始まった大会は九州を1周しました。次回は再び熊本で開催されます。これを機会に、道守通信は特集「これからの道守活動」の課題を特集しています。資金不足、活動者の高齢化と後継者難などなど、一気に解決は出来ない難問ばかりですが、挑戦的な試みをしている長崎、宮崎など4つの活動を特集しています。今後の活動の参考にしてください。

○「幹線道路協議会の国、県、政令都市の行政の担当者と道守代表が一緒になって課題を話し合う会議が開かれました。行政と道守の「協働」は大変重要な課題ですが、地域によって「ばらつき」があり、改めて原点に立つて考えることが出来ました。今後もぜひ継続していただきたいものです。継続は力なりが、道守活動のモットーです。

○「注目されたのが北九州市の「道路サポーター制度」です。急速に、道守の仲間を増やしており、北九州市も一生懸命です。行政と道守がどのように、共に歩んでゆくか先行事例になると感じました。

○「九州地方整備局が始めた「各地道守、風景街道だより」など、丹念な情報提供のための作業が行われています。ぜひ、開いて一読してください。大分の報告にありましたように、ネット社会での情報発信、連携は大きな武器になりそうです。それに合わせて、この道守通信も改革しながら、進化したいものです。ご意見をお寄せください。



発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」秋号
平成24年3月30日発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/>

■(社)九州建設技術管理協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp